

# 東日本大震災後の鍼灸ボランティア報告

## ～ 岩手県陸前高田市での活動における現状とこれから～

あんずの種

原田大祐 畠中美希 須藤隆昭

### 【目的】

東日本大震災被災地支援団体「プロジェクトさとわ」では、震災後の岩手県陸前高田市にて鍼灸等によるボランティア活動を行ってきた。今回、当活動6年目の現状と今後の課題を報告する。

### 【今年度の活動報告】

2016年5月～9月までの計9日、岩手県陸前高田市スーパーマイヤ竹駒店駐車場にて計4回活動(31次～34次)鍼灸師6名アロマセラピスト1名がボランティアとして参加。のべ受診者数は120名(内新患28名)その内、再診者の割合は76.6%であり、活動当初から続けて受診している方も多い。再診者からは毎年の活動を期待している声が聞かれる。活動開始から現在まで(2011年5月～2016年9月)の延べ受診者数は847名。2016年10/24～10/25第35次活動予定今年度の参加ボランティアは北海道、神奈川、岡山などから参加。「募金箱を設置してはどうか」「以前に増して心因性の症状の訴えが多かった(複数回参加者から)」「連続して参加しているがここ1～2年でやっと打ち解けてきた気がする」「震災当初のことを話す方が多かった」などの声が聞かれた。

### 【今後の課題、方針・計画】

1. 地域との連携、地元の鍼灸師との連携、現地のコミュニティスペースやイベント内での活動や健康教室の開催。地元鍼灸師への引き継ぎを行い、受診者の継続したケアを可能にする。
2. 活動告知の改善。活動をチラシ・口コミで知る方が多く、毎年活動後半に受診者が増える傾向。参加ボランティアによって活動時間帯に違いがあることから「いつ活動しているかわからない」という声も聞かれる。SNSの活用、近隣の店舗や公共施設等の掲示箇所を増やし、より効果的な告知の計画を行う。
3. 車両内という治療スペースとしての制限。参加ボランティアから「治療し辛い」「施術が制限される」という声が聞かれる。震災当初は機動性があり、車両内で治療出来ることが利点だったが、現在陸前高田市にも利用可能なコミュニティスペース等があり、車両内にて施術する必要性が希薄となっている。今後の活動継続のためにも、受診者・参加ボランティア共に快適な治療環境が必要と考える。

### 【結語】

現地からの情報が少なくなっている今も、まだまだ復興の只中であることが現地を訪れることで知ることが出来る。活動を通じて知る現状を報告・発信することも、重要な役割であると考えている。

長期化する仮設住宅生活によるストレスや、震災によるPTSD、時間が経つにつれ広がる住民内の心身状態や生活改善の二極化などが、施術を通じて現地の方から聞かれる。また、それらを原因とする諸症状の緩和のため鍼灸治療に期待する方も多く、鍼灸治療が貢献出来る可能性が今後ともあると考える。東北の人々の心身の復興のため、出来ることを出来るだけ行い、今後とも活動の発展を続けていきたい。\_\_